

## 世界経済は引き続き堅調に成長する見通し

世界経済が引き続き堅調に拡大していることを受け、2007年および2008年の世界経済成長率見通しは2007年4月見通しの4.9パーセントから5.2パーセントへと引き上げられている。この好調な見通しにかかる不確実要因は引き続き下振れリスクのほうに多少偏っている。

2007年上半期の世界経済は引き続き好調に拡大した。米国の成長率は第1四半期に減速したものの、このところの指標からは第2四半期に回復したと見られる。また米国以外の大多数の国でも力強い成長が続いている。ユーロ圏と日本の成長は依然、トレンドを上回って推移しており、特に内需が中心的な役割を担いつつあるという歓迎すべき兆しが見られる。新興市場国では力強い成長が続いており、中国、インド、ロシアが軒並み高い成長率を記録している。

世界的に堅調な経済成長にもかかわらず、インフレは全般的によく抑制されているが、一部の新興市場国と途上国では、エネルギーおよび食料品を中心にインフレ圧力に直面している。余剰生産能力の制約から原油価格が記録的な高水準に戻った一方、食料品価格は供給不足とバイオ燃料利用の拡大を背景に上昇している。

こうしたことから、2007年および2008年の世界経済成長率は現在、いずれも5.2パーセントと見込まれている（ともに2007年4月の「世界経済見通し」の時点より0.3ポイント高い）（表1）。主に上方修正されたのは新興市場国と途上国で、中国、インド、ロシアの成長率見通しはいずれも大きく引き上げられた。先進国については、米国の今年の成長率は、4月時点の見通しより0.2ポイント低い2パーセントと予想されるが、米国経済は徐々に勢いを取り戻し2008年半ばには潜在成長率近辺の水準を回復する見通しである。ユーロ圏、特にドイツ、および日本の成長予測も上方修正された。

世界の経済成長見通しの全般的なリスク構成は、2007年4月の「世界経済見通し」時点と同じく、下振れリスクの方がやや勝っている。しかし、スタッフによる個々のリスク要因の評価にはいくつか変化が見られる。4月以降、持続的な高成長を背景に供給面での制約が強まり、インフレ・リスクが増大しつつある。その結果、各国中央銀行がさらなる金融引き締めで踏み切らざるをえない可能性が高まっている。また原油価格急上昇のリスクも引き続き懸念される。同時に公表した「金融市場アップデート」でも述べられているとおり、金融市場におけるリスクも高まっている。一部セクターで与信の質が悪化しているうえ、市場のボラティリティも増大している。

しかし、それ以外のいくつかのリスクは縮小してきているもようだ。なかでも、米国では住宅部門での調整が続いているものの、それ以外の国内需要に関しては下振れリスクは全般的に後退していると見られる。4月見通しで取り上げた、ユーロ圏および新興市場国での成長率上振れの可能性は一部顕在化しており、既に見通しにも反映されている。さらに、世界的不均衡が無秩序に解消されるリスクはある程度後退してきているが、保護主義の高まりのリスクがますます懸念される。

本稿は、半期ごとに発行される「世界経済見通し」に対する改訂見通しの第一弾です。本アップデートについては、weo@imf.orgまでメールでお問い合わせください。

表1. 世界経済見通し  
(特記がない限り年間変化率、パーセント)

	2005	2006	見通し		2007年4月見通し からの変化	
			2007	2008	2007	2008
<b>世界経済成長率</b>	<b>4.9</b>	<b>5.5</b>	<b>5.2</b>	<b>5.2</b>	<b>0.3</b>	<b>0.3</b>
先進国	2.6	3.1	2.6	2.8	0.1	0.1
米国	3.2	3.3	2.0	2.8	-0.2	—
ユーロ圏	1.5	2.8	2.6	2.5	0.3	0.2
ドイツ	0.9	2.8	2.6	2.4	0.8	0.5
フランス	1.7	2.0	2.2	2.3	0.2	-0.1
イタリア	0.1	1.9	1.8	1.7	—	—
スペイン	3.5	3.9	3.8	3.4	0.2	—
日本	1.9	2.2	2.6	2.0	0.3	0.1
イギリス	1.8	2.8	2.9	2.7	—	—
カナダ	3.1	2.8	2.5	2.8	0.1	-0.1
その他先進国	3.9	4.3	4.2	4.1	0.4	0.3
アジア新興市場国	4.7	5.3	4.8	4.8	0.2	0.2
その他の新興市場国および途上国	7.5	8.1	8.0	7.6	0.5	0.5
アフリカ	5.6	5.5	6.4	6.2	0.2	0.4
サブサハラ地域	6.0	5.5	6.9	6.4	0.1	0.3
中央および東ヨーロッパ	5.6	6.3	5.7	5.4	0.2	0.1
独立国家共同体(CIS)	6.6	7.7	7.6	7.1	0.6	0.7
ロシア	6.4	6.7	7.0	6.8	0.6	0.9
その他諸国	6.9	9.7	8.8	7.8	0.5	0.3
アジアの発展途上国	9.2	9.7	9.6	9.1	0.8	0.7
中国	10.4	11.1	11.2	10.5	1.2	1.0
インド	9.0	9.7	9.0	8.4	0.6	0.6
ASEAN-4	5.1	5.4	5.4	5.7	-0.1	-0.1
中東	5.3	5.7	5.4	5.5	-0.1	—
西半球	4.6	5.5	5.0	4.4	0.1	0.2
ブラジル	2.9	3.7	4.4	4.2	—	—
メキシコ	2.8	4.8	3.1	3.5	-0.3	—
<b>備考</b>						
EU	2.0	3.2	3.1	2.8	0.3	0.1
市場為替レート換算ベースの世界経済成長率	3.4	3.9	3.6	3.7	0.2	0.2
<b>財・サービス貿易(数量ベース)</b>	<b>7.5</b>	<b>9.4</b>	<b>7.1</b>	<b>7.4</b>	<b>0.1</b>	<b>—</b>
輸入						
先進国	6.1	7.6	4.6	6.0	-0.1	0.3
その他の新興市場国および途上国	12.2	15.0	12.8	11.1	0.3	-1.1
輸出						
先進国	5.8	8.5	5.5	6.2	—	0.4
その他の新興市場国および途上国	11.2	11.1	10.7	9.2	0.3	-0.7
<b>商品価格(米ドルベース)</b>						
原油 <sup>1</sup>	41.3	20.5	-0.8	7.8	4.7	1.2
除化石燃料(世界商品輸出に基づく加重平均)	10.3	28.4	14.5	-7.8	10.3	1.0
<b>消費者物価指数</b>						
先進国	2.3	2.3	2.0	2.1	0.2	—
その他の新興市場国および途上国	5.4	5.3	5.7	5.0	0.3	0.1
<b>LIBOR(パーセント)<sup>2</sup></b>						
米ドル	3.8	5.3	5.4	5.3	0.1	0.2
ユーロ	2.2	3.1	3.8	3.7	—	—
円	0.1	0.4	0.8	1.2	-0.1	—

注: 実質実効為替レートは2007年5月18日-6月15日の水準に留まると想定。地域グループおよび手法に関しては、「世界経済見通し(2007年4月)」の統計に関する付録参照。網掛け部分はIMFスタッフによる予想。

<sup>1</sup>ブレント、ドバイ、WTIのスポット原油価格を単純平均。1バレルあたりの平均原油価格は2006年実績64.27米ドル、2007年と2008年はそれぞれ63.75米ドル、68.75米ドルと想定。

<sup>2</sup>米ドルおよび円については6ヶ月物、ユーロについては3ヶ月物金利。